

今、「脱原発」

中村新太郎 (富田林市)



私が生まれた時代に国のエネルギー政策は石炭から石油に変わったが、社会の授業で石油は後30年で枯渇すると教えてもらった。

その頃、夢中で見ていたテレビアニメの「鉄腕アトム」は、原子力をエネルギーとして活躍していた。原子力という夢のようなエネルギーによる豊かな生活とバラ色の未来を鉄腕アトムの世界に

重ねていた。原子力を利用する原発は「進歩主義」「近代主義」の象徴であり、日本の国際競争力を高める力強い味方として必要不可欠な存在として信じていた。原発がなくなれば、「人類はサルになる」「日本人の生活は江戸時代に戻る」とさえ思っていた。

突然、3・11東日本大震災の福島第一原発の事故によって、今まで見続けていた夢から目覚めることになった。鉄腕アトムのように思っていた原発は、日本を滅ぼしかねない恐ろしい存在であり、実態は「危険物質」と「嘘」と「利権」でつくられていた。原発の「正体」は、たった一度の事故で国家・国土を崩壊・汚染させ、10万年後の子孫にまで責任を押し付ける破綻した技術である。

今、「脱原発」。原発は日本からなくすべきだ！脱原発によって生じる問題を克服できるかが日本人に与えられた課題であり、その解答は日本人にしか示せない。国家・国土・家族のため一緒に行動を起こしてほしい。

夏の遊び

林 哲平 (淀川区)



15年ぐらい前の7月のある日、学生時代の友人から「鮎釣りに行かないか？」と誘いの電話があった。「うーん…。鮎釣りか…。行くよ」

釣りは小学生の頃からずっとしていた。大学生になると、北陸・東北・北海道と釣り歩いたし、社会人になってからはバラオやカリフォルニアなど海外にも足を延ばして釣りに行った。数回ではあるが、雑誌にも原稿を頼まれて書いたこともあった。

釣りは小学生の頃からずっとしていた。大学生になると、北陸・東北・北海道と釣り歩いたし、社会人になってからはバラオやカリフォルニアなど海外にも足を延ばして釣りに行った。数回ではあるが、雑誌にも原稿を頼まれて書いたこともあった。

友人からの誘いで「うーん」と少し間が空いたのは、鮎の釣りには「おじん臭い釣りや！」と少々バカにしていたのだ。そんな7月のある日、その友人と徳島的那賀川へ初めて鮎釣りに行く。

初心者の私は当然ながら釣れず、最初に買ったオトリ鮎は完全にグロッキーで瀕死の状態。それを見かねた友人は、自分の釣ったばかりの鮎を譲ってくれた。さすがは天然の鮎は養殖物とは違い、増水した川の流石にグイッと泳いで入っていた。その瞬間、竿にガーンと衝撃が走り、竿を立てる間もなく、あっという間に下流に走り、「ブツッ！」。オトリ

鮎もろ共、糸が切れて逃げられた。ショックだった。パラオではメーターオーバーのロウニンアジを釣ったし、カリフォルニアでは60センチクラスのトラウトを何本も釣り上げていたのに、20センチの鮎を釣ることができなかったのだ。そこから、燃えた。週末ごとに釣行し、上手な人を見つけては教を請い、仕掛けや道具も工夫し、勉強もした。「おじん臭い」と思っていた鮎釣りが、実際にやってみると体力を必要とする。学生時代にはアイスホッケーをしていたので体力には自信があったが、川原を歩いたり、胸まで浸かって釣りをしたりで帰りの運転中に両脚をつってしまい困ったこともあった。

性格上、とことんまでしなれば気が済まないタイプなので、夏季休暇には一人で合宿と称して四国や北陸を釣り歩いたりもした。ご存知のように、この友釣りは他の釣りとは違い、エサを食わせて釣るのではなく、鮎の縄張りをもつ性質を利用したものだ。面白く遊びです。

東京電力福島第一原子力発電所の元所長・吉田昌郎さんが7月9日に亡くなった。この日、各メディアは大きく取り上げていた。もし、吉田所長が報道していたようにチェルノブイリ級の事故だったことを踏まえ、被害は今以上に凄まじかったと思う。

私が見た範囲では、どのメディアも同じ趣旨で報道していたと感じた。要点は次の3点。

一つ目は、東電の社員としては珍しく責任感が強い所長以下の職員必死の活躍で、日本は最悪の事態を免れたと考えられること。時には東電本部、官邸の意向に逆らった。本人または、コメントで、

最後は、地震の前に自身が提起した巨大津波に必要なる防潮堤を作らなかつたため、功だけがなく、功労者としてそれにとだ。本人または、コメントで、

そもそも3・11当時、吉田所長には海水注入の権限も逃げる権限も与えられていなかった。東電が全電源喪失という事態を想定していなかったからだ。その意味から考えれば、吉田所長は「原発安全神話」の象徴的な被害者だろう。

被害者出さないために

谷 聰 (高槻市)

てまで独断で行動したことにへの評価。

二つ目は、食道がんなどで亡くなったが、がんの発症が早かったことから事故による被曝とは関係が低いこと。これは東電または病院関係者の弁として

題ないのではないかと思っている。メディアや政府、政界からは、そんな話はいまだに出て来ない。為政者からすると、死後でも吉田所長に名誉を与えるのは不都合があるのかもしれない。

東電は事故の原因究明もないうまま「安全」を強調し、再稼働に踏み出すようにしている。過ちを繰り返さず、二度と被害者を出さないためにも原発から撤退し、速やかに廃炉にしていくべきではないだろうか。